【公報種別】特許法第１７条の２の規定による補正の掲載
【部門区分】第６部門第１区分
【発行日】令和6年4月2日(2024.4.2)

【国際公開番号】WO2023/276488
【出願番号】特願2023-531708(P2023-531708)
【国際特許分類】
G01D 5/245(2006.01)
【FI】
G01D 5/245 W

【手続補正書】
【提出日】令和5年12月7日(2023.12.7)
【手続補正１】
【補正対象書類名】特許請求の範囲
【補正対象項目名】全文
【補正方法】変更
【補正の内容】
【特許請求の範囲】
【請求項１】
回転軸とともに回転する一対の磁石と、
前記一対の磁石が前記回転軸とともに回転することによる磁界の変化によって発電する発電素子とを備え、
前記一対の磁石は、前記回転軸の回転軸線を挟みかつ前記回転軸線に直交する第１直交方向に間隔を空けて配置されており、
以下の（１）または（２）を満たす、
（１）前記一対の磁石の各々のＮ極およびＳ極は、前記第１直交方向における一方にＮ極が位置するように前記第１直交方向に並んでいる、
（２）前記一対の磁石の一方のＮ極およびＳ極は、前記回転軸線方向における一方にＮ極が位置するように前記回転軸線方向に並んでおり、前記一対の磁石の他方のＮ極およびＳ極は、前記回転軸線方向における他方にＮ極が位置するように前記回転軸線方向に並んでいる、
回転検出器。
【請求項２】
前記一対の磁石の各々は、前記回転軸の回転方向に沿って配置されている、
請求項１に記載の回転検出器。
【請求項３】
前記一対の磁石は、前記回転軸線を挟んで対称に配置されている、
請求項１に記載の回転検出器。
【請求項４】
前記一対の磁石の各々の前記回転軸線側の縁部および前記回転軸線とは反対側の縁部は、前記回転軸線方向から見たとき楕円の円弧状に湾曲しており、
以下の（３）および（４）の少なくとも一方を満たす、
（３）前記一対の磁石の各々の前記回転軸線側の縁部に係る楕円の楕円率は、当該磁石の前記回転軸線とは反対側の縁部に係る楕円の楕円率と異なっている、
（４）前記一対の磁石の各々の前記回転軸線側の縁部に係る楕円の長軸方向は、当該磁石の前記回転軸線とは反対側の縁部に係る楕円の長軸方向と異なっている、
請求項１に記載の回転検出器。
【請求項５】
前記（４）を満たし、

前記一対の磁石の各々の前記回転軸線側の縁部に係る楕円の長軸方向は、当該磁石の前記回転軸線とは反対側の縁部に係る楕円の長軸方向と直交している、
請求項４に記載の回転検出器。
【請求項６】
前記回転軸線に直交しかつ前記第１直交方向に直交する第２直交方向における前記一対の磁石の一端部同士の間、および前記第２直交方向における前記一対の磁石の他端部同士の間にそれぞれ配置されている一対の磁性体をさらに備える、
請求項１に記載の回転検出器。
【請求項７】
前記発電素子と前記一対の磁石とは、前記回転軸線方向において異なる位置に配置されており、
前記一対の磁石の各々は、当該磁石の前記回転軸線とは反対側の縁部が当該磁石の前記回転軸線側の縁部に対して前記回転軸線方向における前記発電素子側に位置するように、前記第１直交方向に対して傾いている、
請求項１に記載の回転検出器。
【請求項８】
前記発電素子と前記一対の磁石とは、前記回転軸線方向において異なる位置に配置されており、
前記一対の磁石の各々の前記回転軸線方向における前記発電素子とは反対側の主面は、前記回転軸線から離れるにつれて漸次前記回転軸線方向における前記発電素子側に位置するように、前記第１直交方向に対して傾いている、
請求項１に記載の回転検出器。
【請求項９】
前記一対の磁石は、各々が前記回転軸の回転方向に沿う半円弧状であり、相互に一体的に形成されて環状の磁石を構成している、
請求項２に記載の回転検出器。
【請求項１０】
前記（２）を満たし、
前記第１直交方向における前記一対の磁石の各々の前記回転軸線側の縁部に配置されている複数の磁性体をさらに備える、
請求項９に記載の回転検出器。
【請求項１１】
前記発電素子は、前記回転軸線とずれた位置に配置されている、
請求項１に記載の回転検出器。
【請求項１２】
複数の前記発電素子を備える、
請求項１から１１のいずれか１項に記載の回転検出器。